

要 旨

本研究は、自分の思いや考えを明確にして聞くことができる児童を育成するために、学習プリントを活用した学習指導の在り方を探ったものである。聞く力を具体化して「めあて・振り返り」機能、「学び合い」機能、「手引き」機能の3つの機能をもつ学習プリントを考案し、学習指導に取り入れた。その結果、児童は聞く力を身に付けた具体的な姿を意識しながら学習を進めることができるようになってきた。そして、大事なことを落とさずに話を聞き、話題に沿った感想を述べたり質問をしたりする力が高まってきた。

<キーワード> ①学習プリント ②「めあて・振り返り」機能 ③「学び合い」機能 ④「手引き」機能

1 研究の目標

自分の思いや考えを明確にして話したり聞いたりすることのできる児童を育成するために、「話すこと・聞くこと」領域の学習において、聞く力を高める効果的な指導の在り方を探る。

2 目標設定の趣旨

学習指導要領の国語科の目標は「国語を適切に表現し正確に理解する能力を育成し、伝え合う力を高めるとともに、思考力や想像力及び言語感覚を養い、国語に対する関心を深め国語を尊重する態度を育てる」¹⁾である。「伝え合う力」とは、「人間と人間との関係の中で、互いの立場や考えを尊重し、言語を通して適切に表現したり正確に理解したりする力」²⁾とある。話したり聞いたりする活動は、児童にとって最も日常的な行動であり、「話すこと・聞くこと」の指導の充実を図っていく中で、自分の思いや考えを伝え合い、お互いの考えを理解する力を育成することの大切さを示していると考ええる。

平成24年度の全国学力・学習状況調査及び佐賀県小・中学校学習状況調査の結果によると、「資料を読み取った上で質問したい内容を明確にして発表する」ことや、「話の内容に関心をもって聞き、質問をしたり感想を述べたりする」ことに課題があることが分かる。所属校の児童も同様の傾向があり、先に述べた問題の結果は、県正答率よりもさらに下回っていた。

自分自身の実践を振り返ってみると、聞くことに関する評価の観点を明確に示していなかった。そのため児童は、スピーチタイム等において、相手の話し方についての感想は言えるが、話題に沿った質問や感想はあまり言えないという様子が見られた。自分の考えを明確にして話題に沿った質問をしたり感想を述べたりすることができるようになるためには、系統的・段階的に指導していくことが大切である。つまり、低学年での、話し手が知らせたいと思っている事柄や自分が聞きたい事柄の大事なことを落とさずに聞く力、中学年での、話の中心に気を付けて聞き質問をしたり感想を述べたりする力、高学年での、話し手の意図を捉えながら聞き自分の意見と比べるなどして考えをまとめる力をさらに具体化し、それぞれの学年で身に付けさせたい聞く力として明確にすることが大切であると考ええる。そして、それを単元のめあて及び評価の観点として指導する工夫を、「話すこと・聞くこと」の基礎・基本を身に付ける低学年の段階から繰り返し行っていくことで、児童は聞く力を高めていくことができると考える。

そこで本研究では、研究テーマ、研究課題を受け、「話すこと・聞くこと」の領域において、聞く力を高める効果的な指導の在り方を探っていく。聞く力を意識して学習し振り返る活動を繰り返し行っていくことが、自分の思いや考えを明確にして聞くことのできる児童の育成につながると考え、本目標を設定し、研究を進めることとした。

3 研究の仮説

「話すこと・聞くこと」領域の学習において、聞く力を意識して学習できる学習プリントを活用した指導を行えば、大事なことを落とさずに話を聞き、話題に沿って質問をしたり感想を述べたりすることができる児童が育つであろう。

4 研究方法

- (1) 聞く力を育む指導方法の理論研究
- (2) 小学校6年間を見通した当該学年における聞く力の整理
- (3) 学習プリントの作成と検証授業

5 研究内容

- (1) 先行研究や文献を基に、聞く力を育む指導方法に関する理論研究を行う。
- (2) 聞く力の系統性を明確にし、2年生で身に付けさせたい聞く力を具体化する。
- (3) 単元で活用する学習プリントを作成し、所属校の2年生において、「聞き合おう、みんなのたからもの」(3時間)と『『おもちゃまつり』へようこそ』(3時間)を用いた授業実践を行い、仮説を検証する。

6 研究の実際

- (1) 聞く力を育む学習プリントの工夫を取り入れた学習過程

ア 文献等による理論研究

「話すこと・聞くこと」は意識せずに繰り返されている行動であり、出した言葉が後に残らないため、見直したり振り返ったりする機会がほとんどない。そのことから、広田は、話したり聞いたりする力を高めるには、現在の自分の力を知ることにより、自分の課題を設定し、それに対してアプローチを試み、自己反省し、新たな課題をもつという、繰り返しのサイクルの重要性を述べている。さらに、友達と学ぶことが「自分だけでは気づけなかったことにも気づききっかけとなる」³⁾と述べている。

教師は、児童が課題を意識して学習し、話

したり聞いたりする力を高めることができるように、手立てを工夫する必要があると考えた。

これらの考えから、自分のめあてをもち授業の終わりに評価をする場や、友達と交流する場、また、児童の活動を支える工夫を取り入れた学習過程モデルを考えた(図1)。

イ 聞く力を育む学習プリントの考案

児童の活動を支える工夫として、学習プリントを考案する。身に付けさせたい聞く力を児童に意識させるために、学習プリントには3つの機能をもたせる。1つ目は、「めあて・振り返り」機能である。単元の始めに、めあてをより具体化したものを提示し、1単位時間と単元の終わりに、めあてを達成することができたかを振り返らせたり、次なるめあてをもたせたりする。2つ目は、「学び合い」機能である。児童の発言のよさに気付かせる交流の場で、そのよさを記録させることで、自分の発言をよりよいものにしよう意識させる。3つ目は、「手引き」機能である。よいモデルを

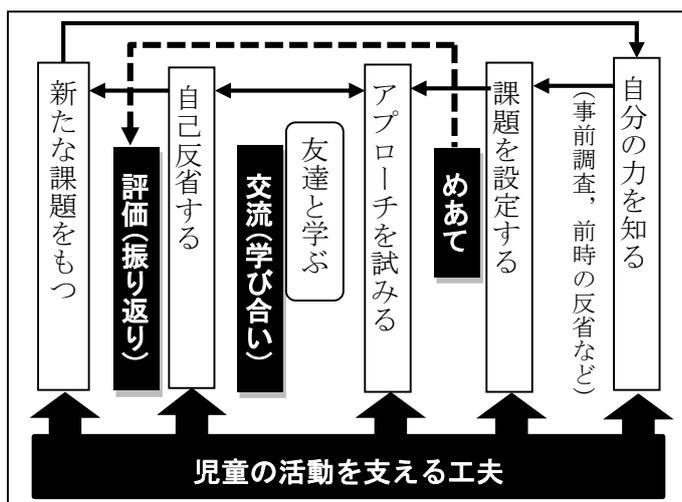


図1 広田の理論を基にした学習過程のモデル

示し、児童の必要に応じて見ることができるようにすることで、児童の思考を促し学習を進める助けとなるようにする。これら3つの機能を学習プリントの両面に構成する(図2)。

これらの機能をもった学習プリントを生かして指導を行うことにより、児童は、身に付けたい力を意識しながら学習を進め、聞く力を高めていくことができるようになる。さらに、このような学習活動を継続して行うことにより、話題に沿って自分の思いや考えを明確にして話したり聞いたりすることができる児童の育成につながると考えた。

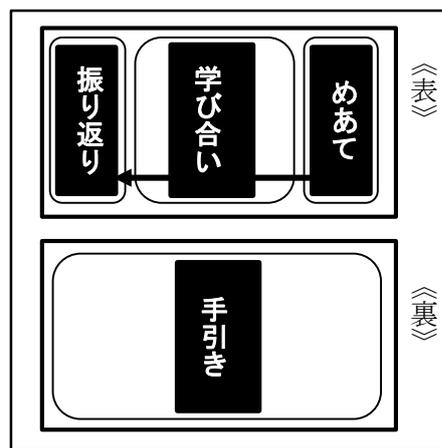


図2 学習プリントの構成

(2) 実践化への手立て

ア 聞く力の整理

学習指導要領の「A話すこと・聞くこと」領域において「エ聞くこと」を重点指導事項とした教科書単元の評価規準に話題を付け加えて分かりやすく整理し、聞く力の系統性を明確にした(表1)。低学年では、「復唱する」「感想を述べる」「質問をする」「メモを取る」といった行動で、聞いたことを表出するようになっている。本研究では、これらの行動ができるようになることを「聞く力が高まる」と捉える。「感想を述べる」「質問をする」ことは、中学年の指導事項の文言であるが、低学年から、「興味をもって聞く」「集中して聞く」と並んで評価規準に明示されている。「話すこと・聞くこと」領域の「ア話題設定」に関する指導事項では、低学年の、「身近なことや経験したこと」から、中学年の、「調べたことなど」へと話題が発展している。つまり、発達の段階に応じた話題に沿って、「質問

表1 教科書単元の評価規準と聞く力

学年	学習指導要領 指導事項工	教科書単元(※東京書籍 平成23年度版)		聞く力
		整理した評価規準	単元名	
第1学年	大きなことを落とさないようにしながら、興味をもって聞くこと。	・先生からの連絡の大事なことを落とさないように注意して聞いている。	【こえのゆうびん屋さん】	復唱
		・友だちの夏休みの思い出のスピーチを興味をもって聞き、感想を述べたり質問をしたりしている。	【はなしたいな・ききたいな】	感想・質問
		・先生からの連絡の大事なことを落とさないように注意深く聞いている。	【きいてつたえよう】	復唱
第2学年	大きなことを落とさないようにしながら、興味をもって聞くこと。	・犬の特徴を落とさずに聞き、短い言葉でメモを取っている。	【まよい犬をさがせ】	メモ
		・友だちのとくいなことのスピーチを集中して聞き、感想を述べたり質問をしたりしている。	【話したいな、とくいなこと】	感想・質問
		・友だちの宝物がどのようなものかを集中して聞き、分からないことや知りたいことを尋ねたり、感想を述べたりしている。	【聞き合おう、みんなのたからもの】	質問・感想
第3学年	話の中心に気をつけて聞き、質問をしたり感想を述べたりすること。	・話の中から大事なことを聞き分けて、短い言葉でメモを取っている。	【話を聞いてメモをとろう】	メモ・質問
		・聞いた話の中で分からない点や確かめたい点を質問している。	【話したいな、夏休みの出来事】	感想・質問
		・友だちのスピーチを中心に気をつけながら聞き、質問をしたり感想を述べたりしている。	【私たちの町の行事を紹介しよう】	質問・感想
第4学年	話の中心に気をつけて聞き、質問をしたり感想を述べたりすること。	・順序や理由を表す言葉に注意して聞き、事柄と事柄の関連が分かるように工夫してメモを取っている。	【メモの取り方をくふうして聞こう】	メモ
		・話し手が言いたいことは何かを考え、自分と比べながら聞いている。	【「今の自分」を話します】	感想
		・報告の内容や発表の仕方について自分の考えをもち、質問をしたり感想を述べたりしている。	【報告します、みんなの生活】	質問・感想
第5学年	話し手の意図をとらえながら聞き、自分の意見と比べるなどして考えをまとめること。	・話し手の述べた理由が意見に対してふさわしいものであるかを考えながら聞き、自分の意見と比べている。	【意見とその理由を聞き取ろう】	メモ・判断
		・発表の内容や発表方法の工夫について、感想を述べたり助言をしたりしている。	【気持ちを伝える言葉について考えよう】	感想・助言
		・話し手の思いをとらえて聞き、感じたことを自分の言葉で表している。	【わたしの「とっておきの一枚」】	感想・考え
第6学年	話し手の意図をとらえながら聞き、複数の意見の共通点や相違点を聞き分けること。	・話し手の意図をとらえながら聞き、複数の意見の共通点や相違点を聞き分けている。	【意見を聞き分けよう】	メモ・判断
		・説明の内容や話し方の工夫について、感想を述べたり助言をしたりしている。	【深めよう、言葉の世界】	感想・助言

をしたり感想を述べたりする」力を段階的に身に付けていくように、単元が構成されている。

イ 第2学年における聞く力の分類

本研究では、第2学年児童を対象に検証授業を行うため、学習指導要領の解説と、第2学年における教科書単元の評価規準及び取り上げられる話題を基に、聞く力を更に詳しく分類した。そして、第2学年児童にも分かりやすい言葉で表した(図3)。

ウ 検証の視点

村松は、「言語活動の類型」を「心情交流型」「情報交流型」「意見交流型」「合意形成型」の4つに分類している⁴⁾。仮説の検証に当たって、心情交流型の単元「たからものはっぴょう会で聞き合おう」と、情報交流型から合意形成型の単元「手作りおもちゃの作り方や遊び方を話したり聞いたりしよう」を行う(表2)。言語活動の類型が異なる単元において、3つの機能をもつ学習プリントを活用し、児童の聞く力を高めることができたかどうかを検証する。

【検証の視点】 学習プリントを活用することによる、聞く力の高まり

(3) 検証授業について

ア 検証授業①単元名「たからものはっぴょう会で聞き合おう」(教材名：聞き合おう，みんなのたからもの 全6時間)

(ア) 児童の実態及び指導のねらい

事前調査では、話題に沿って質問を述べることができた児童は37%(7名)、感想を述べることができた児童は37%(7名)であった。また、質問は42%(8名)、感想は37%(7名)が無記入であった。

この単元のねらいは、興味をもって宝物の紹介を聞き、話題に沿った質問や感想を述べるようにすることである。ここでの「話題に沿った質問や感想」とは、話し手が紹介した宝物やそれを宝物とする話し手の思いについての質問や感想と捉えた。つまり、児童が、図3中の、もの様子を尋ねる「ようす質問」、人の気持ちを尋ねる「気持ち質問」、話し手の思いに感想をもつ「ハート言葉」を使った感想、共感的に受け止める「わたしも言葉」を使った感想を述べるようになることを目指した。

(イ) 指導の実際

話し手が宝物に関する情報をあえて少なく紹介し、聞き手が詳しく知るために質問したり宝物についての感想を述べたりする「たからものはっぴょう会」を設定した。宝物という話題に沿って聞くためには、どのような質問や感想を述べればよいかを理解しておく必要がある。そこで、第2時に感想の種類や言い方を、第3時に質問の種類や言い方を学習した上で、第5時に聞き合う活動であるたからものはっぴょう会を行った。

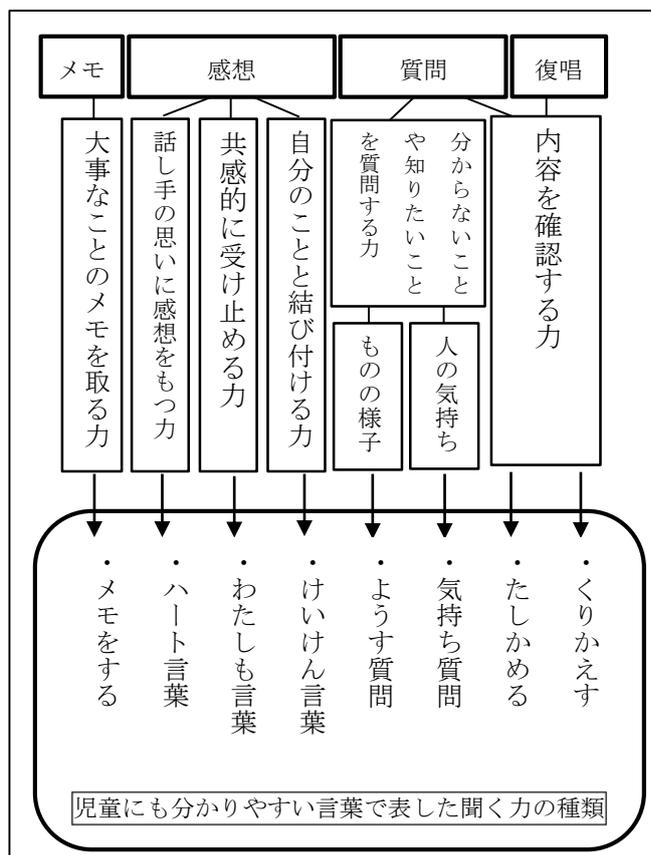
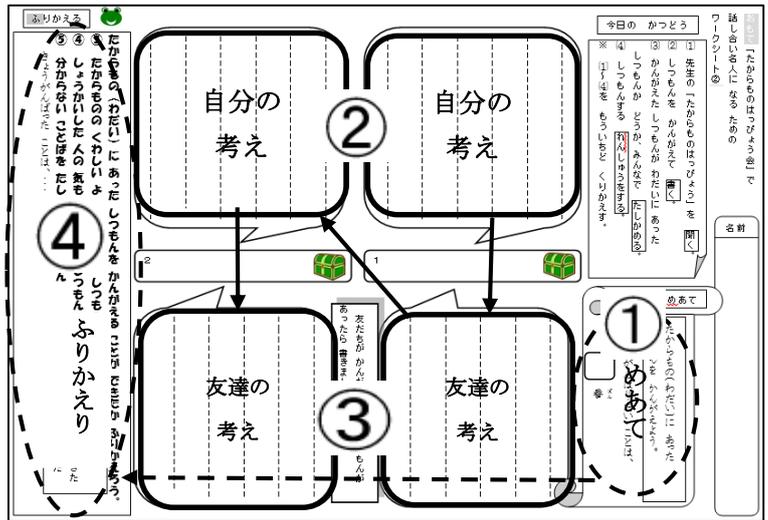


図3 第2学年における聞く力

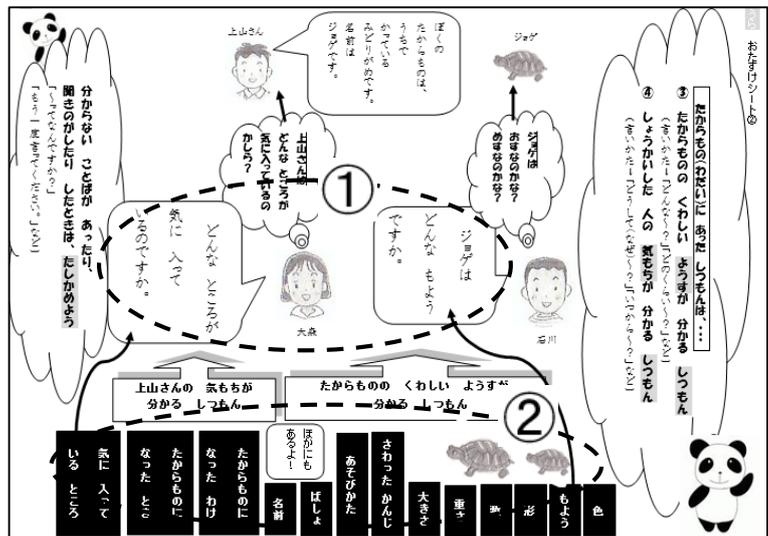
表2 2つの単元の比較

言語活動の 類型	心情交流型	情報交流型から 合意形成型
単元名	たからもの はっぴょう会で 聞き合おう	手作りおもちゃの 作り方や遊び方を 話したり聞いたりしよう

資料1は、第2、3時に使用した学習プリントである。第2時は話題に沿った感想の種類やその言い方を、第3時は話題に沿った質問の種類やその言い方を、教科書を使って学習させた。感想や質問の種類をめあてとして確認させてから(資料1の①)、教師の宝物を紹介に対する感想や質問を「自分の考え」の欄に書かせた(資料1の②)。書く際には必要に応じて裏面の「手引き機能」である「お助けシート」(資料2)に示したよいモデルや(資料2の①)、感想や質問の項目(資料2の②)を参考にさせた。書いたものを発表させた後、友達の発言のよさに注目させ、自分も真似をしたいと思う感想や質問を「友達の考え」の欄に記録させ(資料1の③)、2回目以降に生かすことができるようにした。授業の終わりに、めあてに応じて質問や感想を述べる事ができたかを振り返らせ、「ふりかえる」の欄(資料1の④)に自己評価をさせた。第5時でも、めあてを意識させてからたからものほっぴょう会を行い、最後には振り返りをさせた。また、児童の必要に応じて第2、3時の学習プリントを活用させた。



資料1 第2、3時学習プリント(表)



資料2 第3時学習プリント(裏)お助けシート

(ウ) 【検証の視点】学習プリントを活用することによる、聞く力の高まり

検証に当たっては、まず、学習プリントの記述内容とたからものほっぴょう会での発言を基に、抽出児L児の変容をみていく。事前調査では、宝物の紹介を聞いて、「かわいい。おもしろい」という感想と「どうしてそんな名前を付けたんですか」という質問を書いていた。第2時、教師の宝物を聞いて感想を考える際には、共感的に受け止めるわたしも言葉をめあてとして意識した。お助けシートの「ぼくもかめをかっています」というモデルを参考にして、

「わたしも四つ葉のクローバーのしおりをほしいます」等の感想を書くことができた。友達の考えを書く欄には、ハート言葉を使った感想を記録した。第3時、質問を考える際には、紹介した人の気持ちが分かる気持ち質問をめあてとして意識した。お助けシートの気持ち質問の項目「たからものになったわけ」を参考にして、「なんでうさぎのぬいぐるみを宝物にしたんですか」等の質問を書くことができた(資料3)。次頁資料4は、第5時「たからものほっぴょう会」における、L児のグループの聞き合いの

	感想	質問
単元前の調査	かわいい。おもしろい。 (振り返り)○	どうしてそんな名前を付けたんですか。 (振り返り)○
第二次(第2時第3時)	(めあて)わたしも言葉 (自分の考えを書く欄) 「わたしも、四つ葉のクローバーのしおりをほしいます。」 「わたしも、しょうじょうをもらったことがあります。」 (友達の考えを書く欄) ・めずらしくてすてきなものですね。 ・しょうじょうをもらったことはすばらしいです。 (振り返り)◎	(めあて)気持ち質問 (自分の考えを書く欄) 「なんでうさぎのぬいぐるみを宝物にしたんですか?」 「なんでいちごちゃんて名前をつけたんですか?」 「写真はだれととったんですか?」等 (友達の考えを書く欄) ・たいいんいわいてなんですか。 ・耳はながいですか。 (振り返り)◎

資料3 事前から第3時までのL児の記述

の様子である。L児は、わたしも言葉と気持ち質問を
めあてとして意識した。質問は、お助けシートの「た
からものになったとき」の項目を参考にしながら、「い
つからふでばこは宝物になったんですか」という気持
ち質問をすることができた。また、「ペットはいます
か」というお助けシートに項目が示されていなかった
質問をすることができた。L児は、1番目の話し手の
宝物「家族」に対して、自分の聞きたいことをうまく
伝えられないでいた。しかし、B児の「ペットはいま
すか」という話題に沿った質問(資料4 波線部)をよく
聞いており、3番目の話し手の宝物「家族」に対して、
B児の言い方を真似して質問することができた。これ
は、第2、3時に友達の発言のよさに注目させ、記録
させていたことが、友だちの発言のよさに注目をし
たり、それを真似したりすることにつながったと考
える。学習後の意識調査では、「お助けシートと友達
の考えがとても役に立った」と回答し、「めあてを意
識したことで達成できるようにがんばろうと思っ
た」と回答している。

次に、第5時「たからものはっぴょう会」での児童
の発言を基に、学級全体の聞く力の高まりをみてい
く。話題に沿った質問をすることができた児童は
100%(18名)であった。話題に沿った感想を述べ
ることができた児童は22%(4名)で、質問に比べ、
感想を述べることができた児童が少なかった(図4)。
これは、話し手が宝物に関する情報をあえて少なく
紹介し、質問をすることで進行していくという形式
の会であったため、質問することを優先してしまっ
たという理由が考えられる。児童の全発言(122の
質問と感想)を分析すると、お助けシートに示した
項目の質問や感想が58%であった(図5)。授業
後の意識調査では、「めあてを意識したことで達成
できるようにがんばろうと思っ」と回答した児童
が88%(15名)であった。また、質問や感想を述
べる時に「お助けシートが役に立っ」「友達の考
えを書いていたことが役に立っ」と回答する児童
がそれぞれ72%(13名)であった(次頁 図6)。

これらのことから、めあてを意識して質問や感想
を考え、授業の終わりに振り返るという一連の学
習過程が、児童の話題に沿った質問を述べる力
を高めるのに有効であったと考える。また、友
達の発言のよさに注目させ記録させていたこと
や質問や感想のよいモデ

A(話し手1番目):わたしの宝物は家族です。家族は
4人です。知りたいことをたくさん聞いてくださ
い。
B:ペットはいますか。
A:ペットはいません。
L:子どもはいますか。
A:子ども・・・兄弟のこと?
L:(うなづく)
A:はい。います。
C:お兄ちゃんはいますか。
—後略—
B(話し手2番目):ぼくのたからものは、ふでばこで
す。かっこいいし強そうだからです。知りたいこ
とをたくさん聞いてください。
A:ふでばこの絵は何ですか。
B:ワンピースです。
L:いつからふでばこは宝物になったんですか。
A:2年生の始めです。
—中略—
C:ふでばこはだれが買ってくれたんですか。
B:お母さん
L:ふでばこは、なんくらいもっていますか。
B:2個です。
—後略—
C(話し手3番目):わたしの宝物は家族です。家族が
大好きです。知りたいことをたくさん聞いてくだ
さい。
A:家族は何人ですか。
C:5人です。
—中略—
L:ペットはいますか。
C:はい。
B:ペットと人間を合わせたら何人ですか。
—後略—

資料4 L児のグループの聞き合いの様子

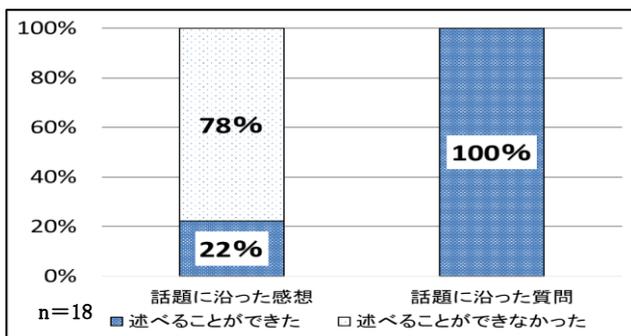


図4 第5時における聞く力の高まり

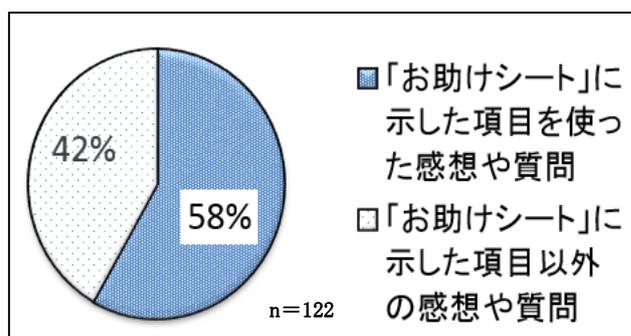


図5 お助けシートの活用状況

ルや項目をお助けシートに示したことが、停滞した児童の思考を助け学習を進める際の助けとなったと考える。つまり、学習プリントの工夫は、話題に沿って質問をするという聞く力を高めるのに有効に働いたと考える。

イ 検証授業②単元「手作りおもちゃの作り方や遊び方を話したり聞いたりしよう」(教材名:「おもちゃまつり」へようこそ 全15時間)

(ア) 児童の実態及び指導のねらい

事前調査では、紹介の内容から、1年生が楽しく遊べるおもちゃであることや簡単に作れるおもちゃであることが大切だと考え、「わたしも楽しく遊べると思う」などの感想を述べたり、「わたしは難しいと思う」など反対の考えを述べたりすることができた児童が74%(14名)であった。また、おもちゃの名前や作り方など、紹介内容の大事な言葉を使って感想を述べることができた児童は58%(11名)であった。「わたしが作ったときは〇〇だった」など自分の経験を感想として述べるすることができた児童が26%(5名)であった。

この単元は、一人一人が選んだおもちゃについて聞き合う活動から、1年生にとって楽しくて簡単なおもちゃを決定するという話し合い活動へと続いていく。そして、決定したおもちゃの作り方や遊び方を一年生に分かりやすく説明するという大単元である。この単元のねらいの一つは、おもちゃの紹介の大事なことを落とさずに聞き、質問をしたり感想を述べたりすることができるようにすることである。ねらいの、「おもちゃの紹介の大事なことを落とさずに聞く」とは、作り方や材料、時間など「楽しい」「簡単だ」と判断できる内容を落とさずに聞くことと捉えた。そして、「楽しい」「簡単だ」というおもちゃの基準に沿っているかどうかを判断し感想や考えを伝えることをねらいとした。つまり、児童が、4頁図3中の、紹介の大事なことを確認し、「くりかえし」で感想や考えを伝えることができるようになることを目指した。また、情報交流型から合意形成型の話し合い活動は児童にとって初めての経験となるため、おもちゃを作ったり遊んだりした経験を基に感想や考えを伝えるなど、思いを聞き合う過程を大切にしたいと考えた。つまり、児童が、4頁図3中の、自分のことと結び付ける「けいけん言葉」を使った感想や考えを伝えることができるようになることを目指した。

(イ) 指導の実際

指導に当たっては、まず、1年生を楽しませるおもちゃまつりにするためには、「楽しく」で「簡単である」おもちゃを選ばなければならないというおもちゃの基準を確認した。一人一人が選んだおもちゃの紹介を聞き合う活動のためには、おもちゃの基準に沿っているかどうかを判断し、感想や考えを伝える際の言い方について理解しておく必要がある。そこで、第4時に感想や考えの言い方を学習した。第5時は、グループで聞き合う活動時間とし、おもちゃの紹介を聞いて、「楽しいか」「簡単か」を判断するために必要な情報を尋ねる「ようす質問」をさせてから感想を言わせた。第6時にグループでおもちゃを決定し、第7時に決定したおもちゃをクラス全体に紹介した。第5時と同様に、「楽しいか」「簡単か」を判断するために必要な情報を尋ねるようす質問をさせてから感想を言わせた。

次頁資料5は本単元の学習で使用した学習プリントの一部である。第4、5、7時にはおもちゃの紹介を聞いた感想を書かせ、めあてとなる言い方ができていたか振り返りをさせた。くりかえしやけいけん言葉に線を引かせ、くりかえしとけいけん言葉を示す印㊦㊧と書かせた(次頁資料5の①)。裏面の手引きには、おもちゃの基準に沿った感想の言い方の基本型(次頁資料5の②)の他に、前時までめあてとなる言い方ができていた児童の感想(次頁資料5の③)を手引きの一部として載せ、友達の発言のよさを意識させた。また、真似をしたいと思った発言があったときに記録できるように、何も

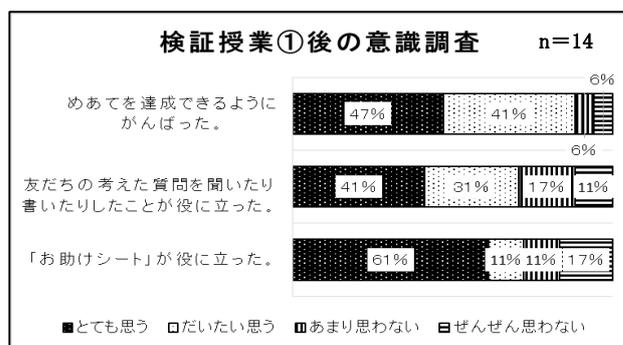


図6 検証授業①後の意識調査

書いていない吹き出しを作った(資料5の④)。

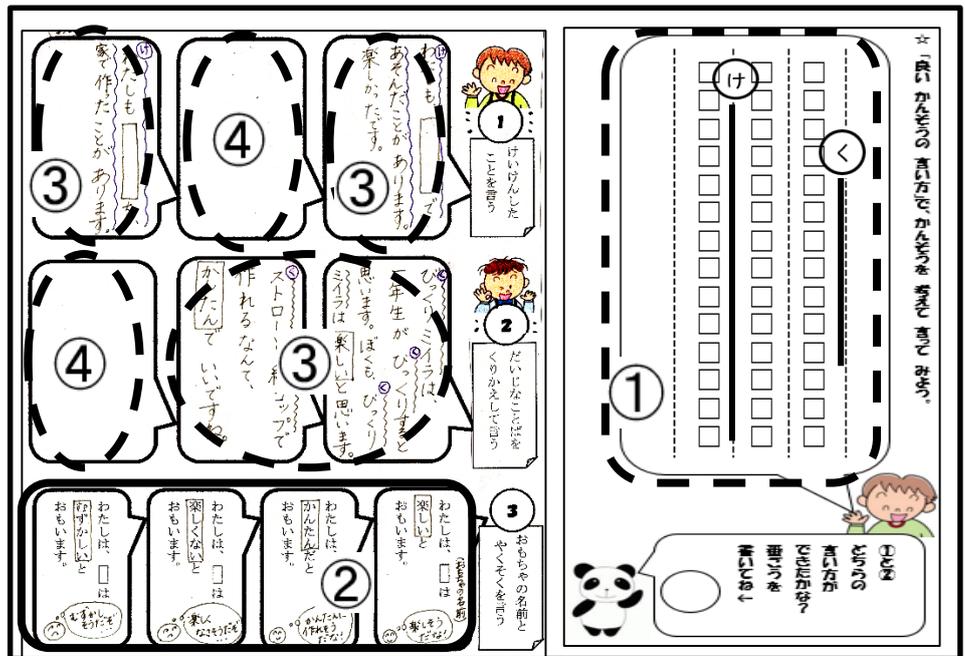
(ウ) 【検証の視点】学習プリントを活用することによる、聞く力の高まり

まず、学習プリントの記述内容とおもちゃの紹介をグループで聞き合う活動での発言を基に、抽出児Q児の変容をみていく。Q児は、事前調査では、一年生に教えたいおもちゃの紹介を聞き、「わたし

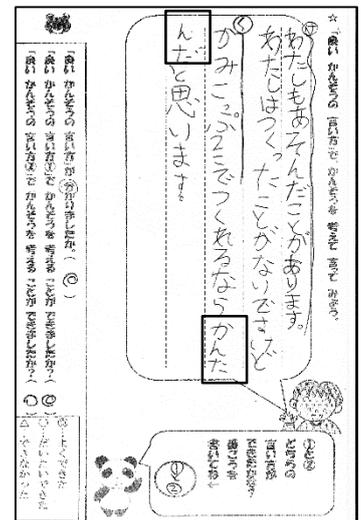
しもそう思います」と感想を書いた。どんなことを思ったのかが具体的に表現されていなかった。第4時に感想の述べ方について学習した後、資料6のように記述した。Q児は、話し手の「紙コップを2個使って作る」という紹介部分を繰り返し、「簡単である」というおもちゃの基準に沿っているという考えを書くことができた。また、自分の記述を振り返り、けいけん言葉とくりかえした部分に線を引き、めあてとなる言い方ができたことを確認することができた。第5時のグループで聞き合う活動の際には、初めのうち、作り方の難しいところや、おもちゃの遊び方で分からないことを積極的に質問していたが、おもちゃの基準に沿って感想や考えを述べるまでには至らなかった。しかし、同じグループのE児が話し手との問答の後に「楽しく遊べていいですね」等の感想を述べている(資料7波線部)のを聞き、おもちゃを決定するためには質問だけで終わらせず、感想を言う必要があるという本来のねらいを思い出

し、感想を伝えることができた(資料7)。また、その感想を学習プリントに記述し第4時と同様にけいけん言葉とくりかえし部分に線を引くことができた。

第7時のグループで決定したおもちゃを聞き合う活動での児童の発言を基に学級全体の聞く力の高まりをみていく。「材料」や「作る



資料5 学習プリント 表の一部(右)と裏の一部(左)



資料6 Q児の第4時の学習プリント

D(話し手1番目): わたしが1年生に紹介したいおもちゃはダンボールごまです。ダンボールごまの楽しいところは、まわしたときにカラフルになるところです。材料はダンボールとつまようじで簡単に作れます。
Q: どころが一番むずかしかったですか。
 D: 難しいところは特にありません。
 E: 回すとどんな模様になるんですか。一回やってみて。
 D: やってみるね。(回す)こんな感じです。
 E: ああ、カラフル。カラフルで、一年生も楽しくワイワイ遊べるとおもいます。
 —後略—
 F(話し手5番目): わたしが1年生に紹介したいおもちゃは糸電話です。このおもちゃの楽しいところは、遠いところでもどこでも話せることです。紙コップを2つ使って、かんたんに作ることができます。
 E: 遠いところってどんな感じで話せるんですか。こういう感じ?
 F: 糸がびんと伸びたら、いいの。(やってみる)
 E: あ、びんてしたら、聞こえる。すごい。聞こえる。一年生も楽しく遊べていいですね。
Q: どこでも話せて、エコで、お金もかからないし、楽しいし、かんたんだし、いいと思います。
 F: ぼくは、糸電話は、かんたんに作れていいと思います。
 —中略—
 G: ぼくも、糸電話は、かんたんに作れていいと思います。
Q: わたしも、あそんだことがあります。楽しかったですよ。

資料7 Q児のグループの聞き合いの様子

のにかかった時間」など、おもちゃの紹介の大事なことを繰り返しておもちゃの基準に沿って感想を述べる事ができた児童が100% (14名)であった。また、自分の経験と結び付けて感想を言う事ができた児童が64% (9名)であった(図7)。事後の意識調査では、大事なことをくりかえして感想を述べる力の高まりを感じた児童は88% (15名)で、けいけん言葉で感想を述べる力の高まりを感じた児童は70% (12名)であった。その力の高まりには、「自分の感想を振り返って線を引くことが役に立った」と回答する児童が82% (14名)、「お助けシートが役に立った」と回答する児童が82% (14名)であった(図8)。

これらのことから、お助けシートによるモデルとして友達の発言を載せたことは、聞く力を身に付けている姿を具体的に意識させ、「自分もやってみよう」という意欲を引き起こすのに効果があったと考える。また、児童に発言したことを記述させ、めあてが達成できたかどうかを線を引いて振り返らせたことは、大事な情報を落とさずに聞こうと意識させ、経験と結び付けながら聞かせることに効果があったと考える。つまり、学習プリントの工夫は、大事なことを落とさずに聞き、感想や考えを述べる力を高めるのに有効に働いたと考える。

ウ 検証授業前後における児童の変容

(ア) 実態調査における変容

聞く力の高まりをみるために、検証授業前(7月)と後(2月)に、調査を行った(図9)。

スピーチを聞かせ、話し手が知らせたかったのはどんなことかを書かせた。スピーチの話題は「宝物」で話し手の宝物は「石」とであるという2つの大事なことを書けた児童が、7月に11% (2名)だったのが、2月には59% (11名)と増えた。2つとも書くことができなかった児童は52% (10名)から5% (1名)と減少した。これは、大事なことは何かという思いをもちながら聞き、復唱しながら感想や質問を述べたことにより、大事なことを落とさずに聞く力が高まったと考えられる。

また、スピーチの内容に対して感想や質問を書かせた調査では、話題に沿った質問を書けた児童が7月に11% (2名)だったのが、2月には80% (15名)と増えた。話題に沿った感想を書けた児童が7月に22% (4名)だったのが、2月には80% (15名)と増えた。これは、質問や感想の種類を児童にも分かりやすい言葉で示し、それをめあてとして意識しながら聞くことを繰り返したことによ

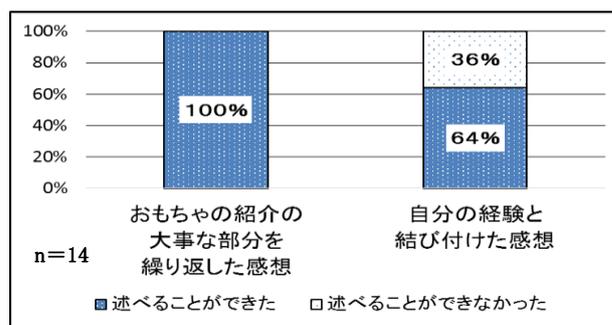


図7 第7時における聞く力の高まり

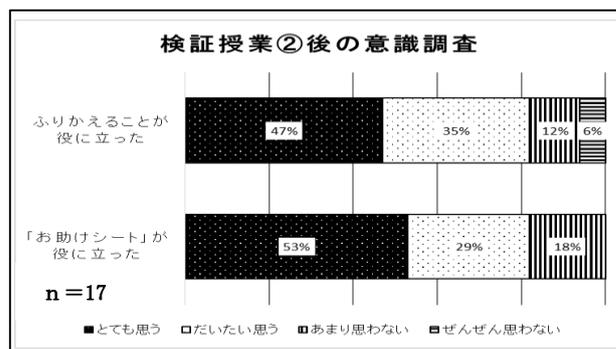


図8 検証授業②後の意識調査

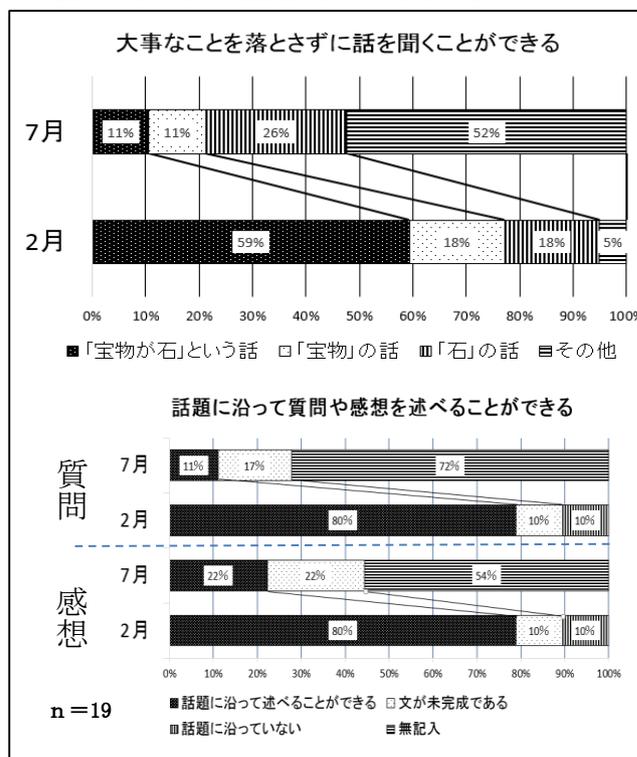


図9 検証授業前後の比較

り、話題に沿った感想や質問を述べる力が高まったと考えられる。

(イ) 児童の意識に関する調査

検証授業後の感想を自由記述させたところ、資料8のような回答があった。聞く力が高まったと実感する肯定的な回答が74% (14名)であった。これは、よい感想や質問の言い方を意識しながら学習を進めていくことができたためだと考えられる。

質問	<ul style="list-style-type: none"> ・質問をすることが好きになった。 ・質問がうまくなったので楽しくなった。 ・グループの中では質問ができるようになった。
感想	<ul style="list-style-type: none"> ・じょうずに言えるようになった。 ・ときどきハート言葉を使っている。 ・前よりもたくさんの感想の言葉が言えるようになった。

資料8 検証授業後の意識調査(自由記述)

7 研究のまとめと今後の課題

(1) 研究のまとめ

本研究では、聞く力を意識して学習できる学習プリントを考案し、単元の学習指導に取り入れ、自分の思いや考えを明確にして聞くことのできる児童の育成を目指した。本研究を通して、次のようなことが明らかになった。

- ・単元で身に付けさせたい聞く力を児童にも分かりやすい言葉で学習プリントに示したことで、児童は、自分のめあてを具体的に意識しながら活動することができた。さらに振り返りをすることで、できたことを実感し新たなめあてをもつことにつながった。
 - ・学習プリントの裏面に手引きを示したことは、思考が停滞した児童の助けとなった。また、学び合いで友達の発言のよさに気付かせ、それをよいモデルとして手引きの一部に取り入れて示したことで、児童は聞く力を具体的に意識することができた。
 - ・「心情交流型」と、「情報交流型から合意形成型」の単元において学習プリントの手立てが有効であり、児童は、実際の話したり聞いたりする場で自分の思いを明確にして聞くことができた。
- 以上のように、話したり聞いたりすることはあとに残らないという性質をもつ行動であるため、学習プリントを活用していくことが聞く力を高める効果的な指導の一つであると考えられる。

(2) 今後の課題

- ・「意見交流型」の単元での学習プリントを活用した指導の在り方
- ・交流の場において友達の発言のよさに気付かせる手立て

《引用文献》

- 1) 2) 文部科学省 『小学校学習指導要領 国語編』 平成20年8月 東洋館出版社 p.9
- 3) 田近洵一編 『自ら学ぶ力を育てる国語科の評価』 1996年 国土社 p.157
- 4) 村松賢一著 『子どもたちの対話が激変する質問力』 2011年 明治図書 p.11

《参考文献・参考URL》

- ・高橋俊三編 『音声言語指導大事典』 1999年 明治図書
- ・小森茂代表 『新しい国語1年～6年』 平成23年度版 東京書籍
- ・川畑慈範代表 『新しい国語 教師用指導書 研究編』 平成23年度版 東京書籍
- ・長谷浩也著 『対話が子どもの学びを変える指導のアイデア』 2013年 明治図書
- ・国立教育政策研究所 『平成24年度 全国学力・学習状況調査 調査結果について』 2012年8月
<http://www.nier.go.jp/12chousakekkahoukoku/index.html>
- ・佐賀県教育センター 『平成24年度佐賀県小・中学校学習状況調査 Web 報告書』 2012年10月
<http://www.saga-ed.jp/kenkyu/scholastic-attainments-analysis/H24Webreport-center/index.html>